

アンケート結果

公開講演会にご参加ください、ありがとうございました。

講演内容の代表的なご質問に対して講師の先生方に回答して頂きましたので下記の通り報告いたします。また、その他のご意見、ご要望などを参考にさせて頂きまして、今後多くの方に関心を持って頂けるように、地球水循環研究センターの研究を分かりやすく紹介していきたいと思います。

平成 26 年 1 月 21 日

名古屋大学地球水循環研究センター

■ 演内容に対するご質問・回答 ■

Q. 氷期、間氷期サイクル（要旨集の図 1）でサイクルがシミュレーションできることが、要旨集の P10-11 に書かれていましたが、300 万年前からデータの振れ幅が次第に大きくなっているのはどの要因が大きいのでしょうか？

A. 吉森氏の回答

「東京大学の阿部彩子先生のご成果になりますが、Nature 誌に掲載された研究は、後半の振幅の大きい、いわゆる 10 万年周期と呼ばれる部分がシミュレーションできるようになった、というのがより正確な記述になります。言葉足らずで失礼しました。10 万年周期については長い間そのメカニズムが「謎」とされてきましたので、非常に本質的な研究だと思います。前半から後半にかけての徐々に振幅が大きくなる、あるいは 4 万年周期から 10 万年周期への遷移については、大気中の二酸化炭素濃度が徐々に低下していったためという仮説や、氷床下の基盤の地質的条件の変化など、いくつか仮説はあるものの、まだ明確な解答はないというのが現状と理解しております。そして、ご質問にあった部分については、今まさに研究が進められているところだと思います。非常に的確なご指摘です。おそらくそう遠くないうちに成果がでてくると予想かつ期待しております。」

Q. 全球凍結は起こらない（今後）とのご見解でしたが何故でしょうか。

A. 田近氏の回答

「今後地球は絶対に全球凍結しないということではなく、全球凍結しにくくなるということです。現在の地球が全球凍結するためには、大気中の CO₂ 濃度が 10ppm (現在は 400ppm) 以下程度にまで低下する必要がありますが、そこまで CO₂ 濃度を低下させるのはなかなか難しいことと、太陽がその進化とともにだんだん明るくなっているため、長期的には（1 億年以上の時間スケールでみると）むしろ温暖化する傾向にあるためです。」

Q. ハビタブルゾーンに地球型惑星が 10 個程見つかっているとのことですが、これらに生命があることがはっきりするのはどれ程先の事でしょうか？

A. 玄田氏の回答

「もし、これらの地球型系外惑星に、現在の地球と同じような生命が存在していれば、例えば、2021 年から観測が始まる 30m 級の地上望遠鏡で生命活動の痕跡 (O₂ 大気、オゾン層の有無) を観測することができるようになります。その後の 2030 年代に予定されている超大型地上望遠鏡と宇宙望遠鏡を使えばさらに微弱な生命活動の痕跡をとらえることが可能となります。したがって、最短で 10 年、そして生命がいるのかそれともいない場合の方が多いのかがはっきりするのは 20~30 年といったところだと考えられています。」

■その他講演会全般に関するご意見・ご要望■

- メモを取るために、机のある会場のほうがありがたい。

▼ 地球水循環研究センターからの回答

野依記念学術交流館ホールには、各座席アームレストの下に収納式の小さいテーブルがありましたが、見つけにくいため講演会開始時にお知らせするべきでした。次年度以降はアナウンスを徹底致します。なお、他の名大イベントとの兼ね合いで理想的な会場確保が難しい場合もあります。ご要望に沿う会場を準備できるよう努力してまいりますが、今後やむなく会場設備の問題でご不便をおかけする可能性もあります。あらかじめご了承頂けると幸いです。

- 配布資料の内容をさらに充実してほしい。

▼ 地球水循環研究センターからの回答

予算的制約やご講演者へのご負担の許す範囲で、より充実した配布資料を準備できるよう検討いたします。

- 若い人の参加を促すよう、中高生を対象としたPRを工夫してはどうか。

▼ 地球水循環研究センターからの回答

中学・高校生を中心とした若い方により積極的に参加頂けるよう、今後さらに広報活動の工夫を心掛けてまいります。

- 地球温暖化を中心としたテーマで公開講演会を開催してほしい。

▼ 地球水循環研究センターからの回答

次年度以降の公開講演会のテーマ検討に際し、頂いたご要望を参考にさせて頂きます。

- 講演の時間管理や、時間枠設定に改善が必要です。

▼ 地球水循環研究センターからの回答

今回は司会進行の不手際により講演会終了時刻が大幅に遅れ、ご迷惑をおかけしました。申し訳ございません。今後改善を心掛けたいと思います。

- 申し込み方法の記載がポスターに無かつたため、問い合わせをする必要を生じました。

▼ 地球水循環研究センターからの回答

ご迷惑おかけしました。申し込みは不要との旨、今後はポスターに明記します。